



宝物の見つけ方・ 活かしか方

「地域資源」と聞いてあなたはどんな物を想像するでしょう。ある人は、その土地でしか取れない特産品を思うでしょうし、またある人は、歴史的建造物や伝統的な祭り、自然景観などを思うでしょう。そのように地域資源には古いものから新しいものまで、実に様々なものがあるのです。ましてや地域資源の存在に気づき、住民や行政が地域づくりの素材として活用しながら成果を上げる方法は数え切れないほどあるのです。私たちはその沢山の地域資源の中に埋もれ、色々ないつも平和な世の中に暮らしている中で、残念ながら気付かず、「何もない」と嘆いていることが多いのです。

ある人が地域資源を探すポイントとして、優・少・凡・負・棄・未という6つの漢字で表現していました。

優—優秀な資源

普遍的に価値のある地域資源は、そうそうザラにあるものではありません。最近では世界遺産流行で、あちらこちらで世界遺産に登録しようという動きがありますが、観光で一儲けしようという目論みもあつて、世界遺産に登録された殆どの地域では、NHK大河ドラマと同じように初物食いの日本人がどっと押し寄せて来るものの、ゴミと交通混雑ばかりで結局はかえって環境を悪化させたり混乱を招き、ブームが去った後の惨めさは言葉で言い表せないほどです。

少—希少価値のある資源

誰も目をつけていない、そこだけにしかないものは探せば幾らでもありますが、学術的な裏づけがなければ人々は信じないものです。動植物や自然景観は人の手が入らない方がかえって守られ保存されることが多く、珍しいと報道されれば盗掘や消滅の危機が訪れます。人間のエゴがそれらの生命を脅かすことのないようにしなければならぬのです。

凡—平凡な資源

何処にでもある平凡なものを見つけその原石に磨きをかけて宝石にする。しかもそれはナンバーワンやベストワンを求めるのではなく、オンリーワンをつくり上げてゆくのですから、これ以上の地域資源はありません。「〇〇の水」という水商売はその一つですが、平凡な水という資源に莫大な投資をして、実際はその工場の地下水を汲み上げて販売していたり、温泉に入浴剤を入れて化けの皮が剥がれたこともあるので、要注意です。

負—マイナスイメージな資源

マイナスを連想させる資源には地震の痕跡や夕日などがあります。私が地域資



シーサイドウェディングinふたみシーサイド公園

源にした夕日は朝日に比べ「落ちる・沈む・没する」というマイナスのイメージが先行して、中々理解を得るのに苦労しました。しかしそのマイナスイメージがゆえに、殆ど誰も手を出さずかえって先行逃げ切りの成功を取めることだったのである。今ではすっかり全国級になった上勝町の葉っぱも落ち葉を連想させますが、どうしてどうして凄いい注目度です。

棄—廃棄物資源

私たちの暮らしは随分近代的になりましたが、近代化は古いものを新しいものに変えるため、要らなくなったものは廃棄される運命にあるのです。廃校・棚田・古民家・古民具・撤退産業など様々です。高齢者には、はなはだ失礼な話ですが、お年寄りだつてある意味社会から疎んじられることだつてあるのです。お年寄りのマンパワーに着目したのは上勝町の葉っぱ産業ですし、日本各地ではお年寄りの元気で地域づくりをしている所はいっぱいあるので



双海にオープンした農家民宿「夕美」^{ゆうび}

す。古いものの価値は革新社会がゆえに益々高まってゆくののです。

未—未利用資源

未だ使っていないものは未利用資源として有用です。間伐材はペレットにされバイオマス燃料として注目を集めていますし、牛豚の糞尿だつてペレット化されています。わが町の安価な雑魚もじゃこ

天に生まれ変わりました。海岸に打ちあがる厄介者だつたホンダワラという海藻は藻塩の原料として注目を集めているのです。

なるほど優・少・凡・負・棄・未とは納得です。しかしいくら地域資源を見つけてもそれを活かす工夫がないとタダの資源で終わってしまうのです。わが町ではそれらの地域資源をグリーン・ツーリズムに生かそうという試みが始まりました。年間55万人が訪れるふたみシーサイド公園の集客能力を、県内現役最古の木造校舎である翠小学校をシンボル拠点として線で結ぼうとしています。既に人々

の暮らしの中に息づいているホタルや観光イチョゴ園などに加え、ピザ釜やワラグロ積み、炭焼きなどの暮らしの技をメニユー化し交流プログラムとして売り出しているのです。

農林漁業など以外これといった仕事のない地方に暮らす人々にとつて、地域資源を活かして経済効果を高めたいと思うのは当然のことかも知れませんが、成功事例に学ぼうと先進地視察を行い、即効を期待し物真似するものの上手く行かず途中で止める姿は哀れささえ覚えますが、成果を上げている地域は、何度も失敗を繰り返しながら長年かかって暗いトンネルの向こうの明るさに到達しているのです。その陰には、奇人・変人と言われるがら人々を導くキーパーソンがいることも忘れてはならないのです。

ある議員 『赤字になったら どうするか』
『黒て書きます』 怒られました
ツーリズム 意味も分らず 始めたが
意外や意外 人がどんどん
水はなあ 上から下へ 流れるが
人は下から 上を目指して
沈む町 つくるな俺は 反対と
殆どみんな 夕日を拒否し
(若松進一 笑売噺より)